

香木の森公園
第1回オーガニックガーデン講座資料

香木の森公園 ガーデンプロデューサー 花房美香

【オーガニックガーデンをご存知ですか？】

オーガニックガーデン！？

出会いは北海道・帯広の「紫竹(しちく)ガーデン」



紫竹ガーデンマップ Shichiku Garden



紫竹ガーデン

1万5千坪の広大な敷地を持ち、国内外より年間十数万人の観光客が訪れる観光ガーデン。

植えられている植物は、宿根草主体で約2千種類、球根類は約4百種(30万球)にのぼる。開園は1988年。

プロフィール

花房 美香(はなぶさみか) :オーガニックガーデナー

学生時代から花の織りなす世界に魅せられ、池坊流生花師教授取得。また、米国の人気絵本作家にして、自邸のナチュラルガーデンで有名なターシャ・テューダーを深く敬愛。長年IT業界で働いてきたが、一念発起して北海道帯広にある、国内でも数少ないオーガニック観光ガーデン「紫竹ガーデン」にて修行。その後、2013年オーガニックガーデンマイスター資格を取得し、オーガニックガーデナーとして独立。

平成26年度から邑南町にある香木の森公園ガーデンプロデューサーに着任。今に至る。東京都出身。

共著に、「淑女の予約帖」世界文化社、「おとりよせ日和」WAVE出版など。



【紫竹ガーデンで学んだ、オーガニックガーデニングの手法】

POINT

- ✓ 地域の資材を活かす
- ✓ 化学製品は使わず、生き物の生命力を信じる
- ✓ 手を使う！目を使う！知恵を使う！

【生態系を活かす】

- ①無化学農薬
- ②無化学肥料
- ③食物連鎖利用

無化学肥料／無化学農薬

【人&知恵】

- ①地道な観察(目)
- ②考える草取り(手)
- ③コンパニオン
プランツ利用
(知恵)など

手と目をかける
豊かな生態系

雇用創出

【地域を活かす】

エコで、ローコスト、
持続可能な
自家製堆肥作りなど
(次ページ詳述)

地域資材の
リサイクル

成長／開花促進

【自然農薬など】

- ①身近な材料で
自然農薬(オーガニック
クスプレー)作り
- ②有用菌溶液作り

生物多様性

葉面散布／
灌水



年間来園者10数万人を誇る
紫竹ガーデン

スパルタ式
栽培

【無灌水】

地植え植物には
基本的に水やり無し
(鉢物は除外)

水やりの手間、
水道代経費カット

【地域を活かす！帯広・紫竹ガーデンの場合】

POINT

- ✓ オーガニックガーデニングの肝は、土作り。
- ✓ 土作りの肝は、地域の資材活用に！



帯 広

国内小麦の一大生産地

麦藁が大量に入手可能

世界唯一のばんえい競馬開催地

酪農業が盛ん

牛糞堆肥の生産地

厩舎の敷き藁は麦藁活用

徳島県「鎌田醤油」の
マッシュルーム工場が帯広進出(※)

厩舎の使用済み敷き藁を
マッシュルームの菌床に再活用

マッシュルーム廃菌床＋牛糞堆肥＋剪定枝・落葉等で自家製堆肥作り

(廃菌床は土の団粒化を促進し、またバクテリアの餌になるのでいい有機肥料になる)

(※)ちなみに、ヨーロッパ原産のマッシュルームはもともと馬厩肥(麦藁)で栽培されてきた。麦藁が手に入り難い日本では、藁やさとうきびの搾りかすに米ぬかや化学肥料を入れた人口菌床で育てられることが多い。厩舎の麦藁に着目した徳島県の食品メーカー鎌田醤油は、この帯広工場国内では珍しい本場ヨーロッパ式で栽培。そのマッシュルームは「とかちマッシュ」という商品名でフレンチやイタリアンのシェフなどに本場の味と好評を得ている。

【生態系を活かす！帯広・紫竹ガーデンの場合】

POINT

- ✓ 植物の成長(開花／実生)は、生態系の底辺の広さ(生物の数)が支えている。
- ✓ 豊かな生態系(生物多様性)こそが大事=多様な生物群と共生(有害菌／虫とも共生)

そのためには__

- 化学肥料は、土壌中の菌の餌にならない！持続可能性が低い。
- 化学農薬は、病虫害だけでなく有用菌や有用生物までも死滅。耐病性も。



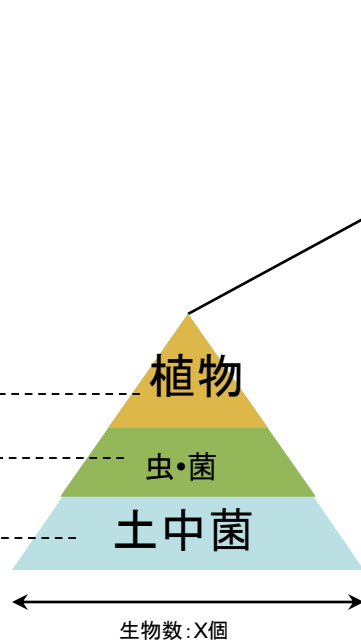
無化学肥料化
無化学農薬化

【慣行ガーデニング】

根張りが弱く、
耐病虫害性も弱くなる

化学農薬使用で虫や菌が減少

化学肥料使用で菌が減少

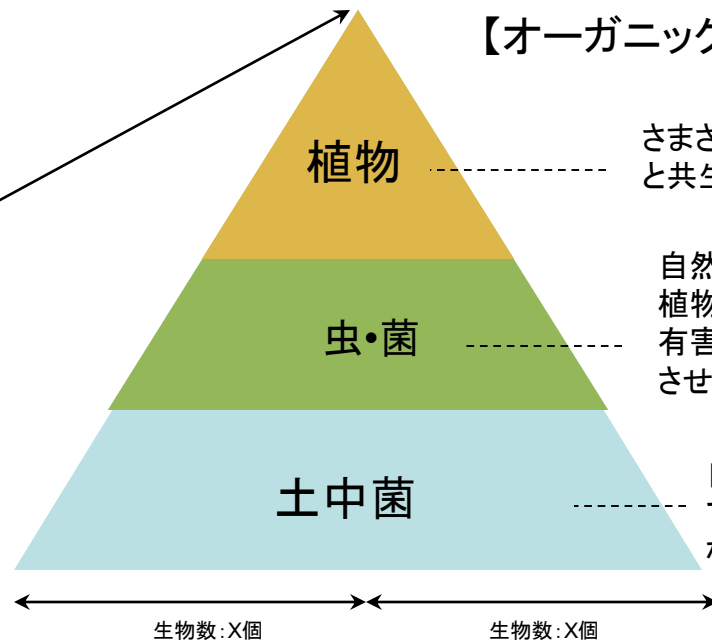


【オーガニックガーデニング】

さまざまな菌、虫、小動物
と共生し、安定成長

自然農薬や有用菌溶液、
植物性溶液などで防除。
有害虫、有害菌も全滅
させない

自家製堆肥や有機物
マルチ、有用菌溶液
などで、菌を増やす



Q.

慣行栽培の畑と、自然林。維持するのにどちらが手間がかかるでしょうか？どちらがたやすく再生可能でしょうか？

《畑》



VS

《自然林》



【人と知恵を活かす！帯広・紫竹ガーデンの場合】

POINT

- ✓ 《病虫害対策》毎日の丁寧な観察で発見。先手を打って防除。
- ✓ 《草取り》時期と効率を考える。優先順位を見極めて”頭”で取る。
- ✓ 《コンパニオンプランツ》植物同士の相乗効果を考え、植栽。
- ✓ 《自然農薬》オーガニックスプレーともいう。身近な資材で手作り防除剤。

必要箇所には
手と知恵をかける！



※写真は、上はニンニク酢液の材料。下は溶液。

Q.

自然農薬(オーガニックスプレー)とは？

自然農薬とは、
化学薬品ではなく、植物のエキスや食材など身の回りの自然素材で作った農薬のことです。

「ニンニク酢液」
ニンニク、唐辛子、ドクダミの酢に漬けた溶液。
薄めて使う。虫除け、殺菌効果。

「牡蠣殻石灰液」
牡蠣殻石灰を食酢で溶かした溶液。
薄めて使う。虫除け、ミネラルなど補給効果。

「スギナスプレー」
乾燥スギナを煮出した溶液。薄めて使う。
ウドン粉病の予防、対処効果。

「牛乳スプレー」
アブラムシ退治によく知られている。薄めずに使う。

などなど。
植物によって、症状によって、使い分けます。

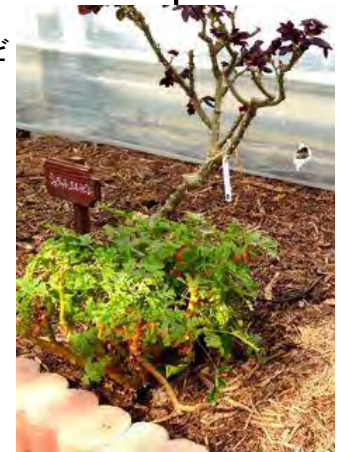
Q.

コンパニオンプランツとは？

一緒に植えることでお互いの生育にとってプラスとなる、相性のよい植物のことをコンパニオンプランツといいます。共栄作物とも言われています。逆に土中の栄養を取り合ったりして、互いに生育が悪くなるなど、近くに植えないほうがよい組み合わせもあります。

《相性のよい組み合わせ例》
マリーゴールド×アブラナ科など
ナスタチウム×アブラナ科
バラ×チャイブ、
バラ×ガーリック、
バラ科×センテッドゼラニウム
バラ×エキナセア
アブラナ科×キク科など

《相性の悪い組み合わせ例》
ローズマリー、
ラベンダーなどは、
混植には不向き



※写真は、香木の森公園パラハウスでのコンパニオンプランツ例。
バラの根元に植えたセンテッドゼラニウム。飛翔昆虫除けになります。

【香木の木公園・これからの取り組み】

POINT

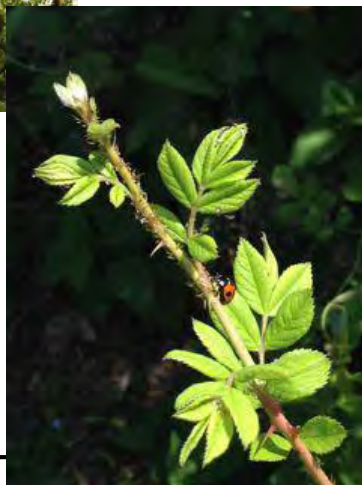
- ✓ 《土作り》米どころの「米ぬか」を活かした自家製堆肥作り。
- ✓ 《オーガニックな防除》自然農薬を使った、こまめな防除。
- ✓ 《地域資源活用》「もみ殻」「竹」など資源リサイクル。
- ✓ 《有用菌液活用》「えひめAI(あい)」等、有用菌パワー活用。
- ✓ 《生物多様性で公園作り》害虫退治をする小鳥たちを増やすため、巣箱導入。
- ✓ 《気候風土により合った品種選び》病虫害に強い原種系の導入。

オーガニック化進めば
➡ 施肥は年一回だけなど
大幅な省力化図れる。

Q. 巣箱はなんのため？

これはこの二月、スタッフが作った巣箱。バラや植物の葉を食害するイモムシを食べてもらうため、シジュウカラなどの小鳥たちを公園内に増やすために作りました。

春から夏にかけて、ちょうどバラの開花などにあわせイモムシがやっばい誕生します。その時期、小鳥たちも営巣し、子育てをするので、食欲旺盛なヒナたちにイモムシをいっぱい食べてもらおうという作戦です。園内三カ所の木にかかっています。現在ヒナが孵った巣箱も。ぜひ、探してみてください。



Q. 益虫が多くなるとどんないいことが？

化学農薬を撒かなければ、テントウムシのような益虫がアブラムシなど草食性昆虫をどんどん捕食するようになります。この食物連鎖や自然農薬は、病虫害を全滅は出来ません。けれど、均衡を保ち、一斉発生はなくなります。

Q. 「えひめAI(あい)」ってなに？

愛媛県産業技術研究所で開発された環境浄化複合微生物。環境浄化(水質向上、消臭、汚泥削減など)、堆肥化促進などに効果があるといわれています。

有用菌群が、病原菌が付着する前に先に展開して植物を守ったり、葉の表面の病原菌を捕食したり、土に入り込んで捕食してくれたり、土自体も健全な状態に修復するといわれています。「マイエンザ」などの商品名で市販もされていますが、材料と作り方が公開されているため、現在、香木の森公園ではスタッフが手作りしています。

材料は、全て家庭にある、口にしても安心安全なものばかり

- 納豆
- 無糖ヨーグルト
- ドライイースト
- 砂糖
- 水



これらで作った有用菌液を、葉面散布、灌水にまぜての散布を行っています。

香木の森公園がオーガニックガーデンになると、こんないいことがあります！

【1】「癒しの場」としての公園魅力化

来園者の〈安心・安全・健康〉に貢献。四季折々の花々を見、ハーブに触れ、ほっとする「癒しの場」としてバージョンアップします。生物多様性確保のため小鳥のための巣箱を設置したり、ハーブ含め植物種数も充実中です。今後は、水辺の植生を増やしたり、子供がより楽しめる珍しいフォルム、生態の植物なども増やす予定です。

例

平成26年4月の園内植物種数：約1000種

→ 平成27年4月現在：約1200種 → 平成28年4月予定：1600種 → 平成29年4月予定：2000種

【2】「環境先進度の高い」公園、町として観光価値UP

地域におけるオーガニックガーデニング、生物多様性学習の啓蒙的発信拠点になります。このオーガニックガーデニングが広まることで、「環境先進度が高い」邑南町の観光価値増につなげます。

【3】経費削減&地域経済活性化

化学農薬／肥料代やそれに伴う人的コストを削減します。削減コストを町内消費に回せば、地域経済活性化。平成26年度購入実績と本年度代替品購入予測額比較：91,000円 ⇒ 6,000円（年間93.4%削減予定）

例

町内家庭の年間農薬・肥料代1000円とした場合の削減試算：

$(1000円 \times 5000世帯) \times 93.4\% \Rightarrow$ 月間 4,670,000円／町

【4】地域循環型ガーデニング

今まで処分になっていた〈米ぬか、竹、もみ殻など〉をリサイクル活用することで、環境にやさしく、地域内での持続可能、かつ、循環型ガーデニングを実現します。国内の公共公園では先進的な取り組みとなります。